

OSFだより

第98号 2009(H21)年10月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

一本の天秤棒

会長 岡本 正

～初心忘るべからず～

今から60年前、私が千葉へ来てゼロからの挑戦を始めたときに、もと三菱商事の役員の大先輩から教えられた話である。

彼が大学を出て三菱商事食糧部に入社したころ、ベトナムのサイゴン(今のホーチミン市)へ米を買いに出張した。当時サイゴンは東南アジアの米の取引の中心地だった。彼はサイゴンで一番の米の商社の社長に会った。立派な社長室に案内されたが、正面に一本の古い天秤棒(労働者が荷物を運ぶ時肩にかつぐ棒)が大切に置かれてあった。不思議に思って彼がたずねると、社長の話はこうだった。

「わたしが若い時、中国広東の港を出てサイゴンへ向かったが、所持金は皆無でこの天秤棒一本しかなかった。サイゴンでは港の労働者として、この天秤棒一本が唯一の頼りだった。幸いにして今では、サイゴン一番の食糧商社の社長になったが、昔の苦しい時代を忘れないようにそばに置いて、心の戒めとしているのだ」と。

わたしの先輩は続けて、「岡本君。人間は金や地位ができるのと油断して失敗するものだ。君も今、ゼロからスタートしたばかりだが、この天秤棒の話をよく覚えておくように」と話してくれた。

あれから何十年も経つが、天秤棒の教訓は非常に印象深く、私はいつも心に留めてきた。

このことを「初心忘るべからず」という。

前号に「ホンダ」のことを話したが、今回は名実ともに世界のトップクラスにあるウォールマートの話をしよう。この会社は今度の世界的経済変動の中にあっても、立派な業績を上げているが、創業者のサム・ウォルトン(1918-1992)はずばらしい経営者だった。アメリカをはじめ世界各国で彼に関する多くの本が出ていて、その徹底したローコスト経営ぶりを一部紹介する。

- (1) アメリカの大会社の本部はニューヨークなど大都市に集中しているが、ウォールマートの本社は南部のアーカンソー州の田舎にある。
- (2) 社屋は二階建ての粗末な木造倉庫の転用だ。
- (3) 社長室は小さな個室、そこに使い古した木造の机、窓を開けると見えるのは草原と牧場。
- (4) 社長は小型トラックを自分で運転して出社する。(晩年ようやくシボレーの中古車に換えた。)
- (5) 出張時は飛行機はエコノミー。ホテルはビジネスホテルを使う。
- (6) ただ、ライバル企業に先行して、情報ハイテク機器は完備していた。そうでないと全世界何千という店のコントロールはできないから。

私は過去2回この会社の本部を訪れたが、質素・堅実そのもので、これが世界のトップ企業の本社かと驚き、感心したものだ。

私はホンダやウォールマートの社長の生き方が理想だと皆さんに薦めているのではない。各人自身自身の考えで「わが道」を進んでほしい。

唯一「天秤棒の精神」を忘れないように願っているだけだ。

金 雪英

中国（吉林省）

千葉大学 人文社会科学研究所

専攻科目の選考理由と将来の目標について

多くの中国留学生は日本で経済学を学んでいる。その原因としては、中国において経済学は理系学に属するのに対して日本では文系学に入る。そのため経済学に興味を持ち、かつ特に専攻している専門がない留学生は経済学を選択する傾向が多いのである。さらに、近年経済が急激に発展している中国では、経済学者のニーズは増えているからである。私もこれらの原因により経済学を選んだ。

ノーベル賞受賞者の京大名誉教授（益川敏英）は就職活動にアドバイスを求める学生に次のように言った。「何かが自分に合うと思うから選択するのではなく、どのようなことでもまず第一歩を踏みきって、歩みの中で自分に適合することを見つけるのが重要である。」私はこの言葉に感心した。受験生の当時、私にとって国立大学に入ることが重要であって、その専門は重要視しなかった。千葉大学の経済学科に入学して、経済史、会計学、経営学、金融工学など様々な分野の科目を履修することができたが、その中で私は金融工学に魅力を感じるようになった。私の研究分野は、株式・為替など過去のデータを持つ時系列を用いて、将



来の動きを分析することである。その分析方法としては、古典的統計学を用いることもあるが、近年では物理学を応用したベイズ統計学が時代の主流になっている。現在日本でベイズ統計学を用いて研究をなさっている先生は10人程度である。

私の卒業論文のテーマは「ボラティリティ変動モデルを用いた為替オプションの分析」である。卒業論文を書くなかで、私は新たな目標を見つけることができた。100年に一度訪れると言われている今回の金融危機に多くの国の為替は大幅に下がり、特に韓国のウォンは以前の半分の価値まで下がってしまった。一方、日本は円高で苦しんでいる。一国の経済状態と国同士のつながりを為替で分析し、さらに、証券市場で将来の為替の動きを予測することが、私が大学院に入る理由である。

将来の目標については、今考えているのは二つある。一つは、博士まで勤勉しこれらの先進国の知識を中国に伝えることである。もう一つは、修士終了後、4.5年日本で就職して経験を積み上げ、将来的には自国に貢献できることである。

趙 雲峰

中国（吉林省）

千葉大学 園芸学研究所 環境園芸学専攻

留学生活を経験して

自分で成長したと思えること

時間が経つのは早いもので、日本に来てもう7年になります。初めて日本という国の土地に踏み込んだ当初は、新しい環境に対する憧れと、未知なる世界に対する不安な気持ちでいっぱいでした。生まれ育った故郷を離れ、両親とも離れ、異国で生活するのは思ったほど容易なことではありませんでした。また、中国と日本の物価の違いで、日本で生活と勉強を続けていくにはアルバイトをせざるを得ませんでした。一人っ子で、両親のもとでは靴下さえ自分で洗ったこともなかった私にとって、アルバイトは新鮮で挑戦に満ちたことでした。今になって、日本でのアルバイトの経験は一番私を成長させてくれたものであるとつくづく思います。

たくさんの出来事の中でも、最も印象強いのは日本に来て初めてやった飲食店のアルバイトの時のことでした。ある日、掃除を任された時でしたが、自分ではきっちりやったつもりが、当時の社員の方に何度も怒られました。高校時代まで、真面目な学生で、人から怒られるという経験があまりなかったので、ショック



を受けました。一時、アルバイトを辞めようとも考えました。しかし、ある時「仕事というものは、求められる以上のものをして初めて認められるんだ」と言われたことがきっかけで、その怒られた社員の方に対する考え方が変わりました。また、お金をもらって仕事をすることには、求められる基準以上に達しなければ報酬をもらえない。それどころか、やり直しも当然であることがわかりました。その後、他のアルバイトをやった時にも、この教訓を生かして真剣に取り組み、求められる以上の仕事をするように努力することができるようになりました。

アルバイトは、留学生生活を続けていく上に不可欠なものであると思います。特に私のような決して裕福な家庭で育ったわけではない人間としては…。アルバイトと勉強の両立は大変ですが、私はそれを日本という国を知り、社会に溶け込む良い機会だと思っています。そして、両親のありがたさを教えてくれたのも全部留学生活のおかげだと思っています。

李 銀晶

韓国（江原道）

神田外語大学 国際コミュニケーション学科

人と共に歩いていく大切さ



息を吐くと真っ白になるほどの肌寒い冬の朝、ふと自分に質問を投げかけてみました。「私にとって一番大切なことは何だろう」、「何のために生きているのだろうか」という自身に対する質問から始まった悩みがありました。その時は、ちょうど社会人として5年目になり、変化のない生活に安住してしまった自分に気づきましたが、その質問に対する答えはどうにも得ることができませんでした。

その時、小学校の頃から親友である友達からの一言が、ぼやけていた私の心にひとすじの光を注いでくれました。「自分を変えるものは自分自身しかいないよ。先のことを恐れちゃだめだよ。」という言葉でした。一見聞くと、そんなに心にしみこまれる言葉ではないと思われるかもしれませんが、私にとっては、その一言が日本に来られるきっかけになったのです。そして、私を成長させ、変えることができるのは勉強することだと思い、些細なことからはじめようと思って、昔から興味を持っていた日本語の勉強を始めました。新しい自分を探しに一步踏み出すことを決めた私に日本留学というチャンスが訪れ、人生の新しい舞台での希望を膨らませながら、2007年来日しました。その頃は言葉を始め、生活や文化などのすべてが見慣れないことばかりでした。そういうことは私に新鮮な感じを与えてくれたのです。

しかし、いいことばかりではありませんでした。思うように日本語がうまく上達せず、私の気持ちをうまく伝えられなくて自分にがっかりしたり、自分自身を攻めた

り、更に、日本人に対する恐怖感さえ感じたこともありました。つまり、心の扉を閉めようとする自分が見えたわけです。その時、頭に浮かんだのが、私のことを大切にしてくれる家族や友達、そして、新しく出会った日本人の先生や友達がいるということでした。私の話に耳を傾けてくれる人々、優しくアドバイスしてくれる人々がいることに気づいていなかった私が情けなかったのです。こんなに素晴らしい人々に巡り合っているのにもかかわらず、それは人間が生きていくのに欠かせない空気のようなものだと思い、それに対する感謝の気持ちを忘れていたことが分かりました。日本語という壁にぶつかり、日本人と一緒に生活していくためにその文化を拒否せず、そこに自分らしく溶け込もうと思いました。バイトをすることで日本人と接することができ、新しい仲間達ができて、お互いの違いを理解して相手の立場に立って考える力が身に付きました。そして、接客という仕事の中で様々なお客様との出会いを大切にして、一人ひとりに響くおもてなしと温かい言葉を自然に繰り返すことで、苦手であった人との接し方がわかるようになりました。

今年、大学4年生になり、また日本の生活でのステップアップを目指し、就職活動を始めたばかりです。自ら自分らしい道を探し、そして、共に歩いていく人々がいることに感謝する気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思っています。

周 美花

台湾（花蓮県）

東京藝術大学 美術研究科美術専攻

留学生活を経験して

自分で成長したと思えること



私は、日本に留学して9年になります。私がこの9年間の日常の生活と大学での生活の中で得た経験や知識はとても大切なものです。この9年間の思い返せば、日本に留学して間もないころは、長時間の授業は不安で、毎年学費と生活費の心配で正直辛いと感じることもありました。何事にも勇気を出して一步一步踏み出せば、自分自身の目的は達成でき、とてもよい経験を得ることができることを学びました。

私が日本で暮らしてきた中で、日本人の最も素晴らしいと思う点は、日本人は、物事や人間関係に対して、責任と信頼を大切に、プライドを持って最後まで取り組む姿勢です。その姿勢を見習い、人と人との話し合い(コミュニケーション)を取ることを一番大切にしたいと思います。

留学生活の中でも、信頼を持って、献身的に人と接していくことによって、言葉や表現、身なりなど、異文化間の違いを互いに理解し合い、互いのもつ文化・芸術の良さを学び合い、深めていくことができると思います。また、日本では、「古き文化と新しき文化」という二つの文化の融合があり、私はそこに日本の現代におけるありかたの新たな方向を強く感じています。同時に自分の国の文化への理解、さらに世界への理解を深めることにつながるでしょう。

このような事を感じ、考えられるようになったのは、自分の生まれた国から離れ、日本という違う文化・歴史を持つ国で、勉強をし生活をしてきたことの成果であり、この留学生活を通して、私が大きく成長したからだと思っています。

トピックスTopics!

合同バーベキュー大会

10月11日、会館屋上で会館生と奨学生の合同バーベキュー大会が行なわれた。当日は一昨日の台風がうそのように晴れわたり、なごやかな楽しい会がいつまでも続いた。



夏の間、結婚の報告がたくさん届いた。心あたたまる便りだ。いつまでもお幸せに！

◎ 5月にOBの陳麗婷さん(H15 奨学生、台湾)が東京の教会で結婚式を挙げた。先日素敵な写真のハガキが届いた。二人の門出を祝福したい。

◎ 8月16日、OBの李志さん(H18 将学生、中国)が中国で結婚式を挙げた。末長い幸せと、思いつき楽しい新家庭を築いてほしいものだ。

◎ 8月23日、OBのチャン・ユイ・ヴさん(H20 奨学生、ベトナム)がベトナムで結婚し、華やかなアルバムを持って二人で財団を訪ねてきてくれた。



◎ 9月20日、会館生のセンマイさん(ミャンマー)が東京の教会で結婚式を挙げた。会館生全員と王維婷さん、ミピンさん夫妻、マイさん、フイ君も出席した。民族衣装で一段と美しかった。



「訃報」

財団設立当時からご尽力くださった元理事、顧問の佐野元生さまが9月に逝去されました。長年のお力添えに深く感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

OB近況

◎ 8月30日にOBの王維婷さん(H19 会館生、中国)がカナダでの語学研修を終え、日本に戻ってきた。英語がペラペラになり、少し会わない間に本物のレディになった。

◎ OBの陳朝輝さん(H20 奨学生、中国)が帰国した。天津の南開大学の先生になるとのこと。必ず優秀な先生になると思う。9月3日、忙しい帰国の日にわざわざ財団に立ち寄ってくれた。



◎ 9月9日、OBのコン君(H14 会館生、カンボジア)が来日し、会館を訪ねてくれた。3年ぶりだが、すっかり貫禄がついた。会館生を交じえ、夜遅くまで昔話に花が咲いた。

寮の入退居

- ◎ 10月1日、ソン君(ベトナム)が会館に入居。これからよろしく！
- ◎ 10月2日、家族宿舎のアマンガリさん(中国、ウイグル)が退館し、ご主人の待つアメリカへと旅立った。
- ◎ 10月4日、家族宿舎のタイ君(ベトナム)が船橋へ転居した。

夏休みに、奨学生の郭保竹さんと鄭龍雲さんが研修のため、大学から選ばれて外国へ行って来た。(40日間) 実りある旅になったことだろう。



研修でブラジルへ行って来ました。大河アマゾンも見たよ!!

イギリスへ行ってきました。毎日英語、英語でまいっちゃった!!

